

明和町の近世

江戸時代の村々は大名が支配する藩はんごとのまとまりが強い時代でした。当時は一国ほどの広い土地を一つの藩が治めていることが多いですが、この明和町内には5つの藩領と伊勢神宮の領地に分かれていたのです。当時の明和町には33の村があり、八田藩領、津藩領、鳥羽藩領、西条藩領、紀州藩領、神宮領の6つの領地に分かれていました。神宮領の齋宮、竹川、上野、有爾中、平尾は神領五箇村とよばれ、ここから出される年貢ねんぐが伊勢神宮の収入源であったため神宮を支えた重要な村だったと言えます。

竹川と金剛坂・上村の境は神宮領と紀州藩の境となり、現在の大字の境として残されています。竹川と金剛坂では伊勢街道をはさんで神宮領と紀州藩とに分かれていました。

道を隔てて藩領がわかれているように、狭い範囲でこれほど領地が分かれ、入り混じることは珍しいことでした。



キーワード：江戸時代、藩、神宮領、神宮五箇村